

14 番（小川義昭議員）

本当にジオパーク世界認定が本市にとって新たなスタートとなりますよう、私自身も必ずや世界認定をいただけるものと信じております。

それでは、3点目の質問。ジオパークに関する関心の地域間温度差の解消策についてお伺いします。

去る10月23日、本市において日本ジオパーク全国大会が開催されました。その大会でジオパークに関する口頭発表の小中高校の部で発表した市内の小中高は全部で10校、地域別で見ますと、白山ろく6校、美川3校、鶴来1校、そして松任は何とゼロ校でした。

松任の小学校でも児童がジオパーク遠足で白峰や美川に足を運んで魅力を感じる機会を設けているとのことですが、それでもジオパークに関する関心は、白山ろくとは明らかに大きな差があります。

ジオパークの見どころである地学と自然のサイトは市内に96か所あり、うち78か所は白山ろくに集中しており、白山や手取川、百万貫の岩など、有名な場所が多く存在しています。それに比べて松任地域は、海岸沿いのハマナス群生地など3か所しかありません。そのようなことを考えますと、確かにジオパークに関する関心の差があっても当然かと思えます。

そこで、今後、ジオパークに関する地域間の温度差を解消するためには、市の人口の6割を占める松任地域においてもジオパーク熱を高め、ジオパークに関する理解度を深めることが不可欠かと思えます。地域間温度差を解消するための有効な対応策をお伺いいたします。